

Green Brave

10th Anniversary

TOYOTA GAZOO Racing GR86/BRZ Cup 第3戦



2022年9月24日(土)~25日(日)
十勝スピードウェイ(北海道更別村)

GR86/BRZ Cup プロフェッショナルシリーズ

予選で出遅れ、地頭所選手 13 位、吉田選手 20 位

GB ドライバーの吉田選手と 86GB キャンプの地頭所選手が出場。プロシリーズのエントリー台数は 31 台です。予選日(土曜日)の天候は曇。前日から降り続けた雨により、路面は濡れています。吉田選手と地頭所選手はチームと相談の上、ウェット寄りのタイヤセッティングを選択。予選開始の合図と同時にピットロードに並び、コースインしていきます。吉田選手、地頭所選手ともに、予選の序盤に 1 分 38 秒台をマーク。トップ 10 圏内につけましたが、セッションの後半から路面が乾きはじめ、ドライ寄りのセッティングを選択した選手が上位を占めるようになります。無線を通じてピットインのタイミングを検討する両選手とチームですが、アタック続行を選択。しかし、タイムは伸び悩み、地頭所選手が予選 22 位(1 分 37 秒 745)、吉田選手が 24 位(1 分 37 秒 851)という結果に終わりました。ウェットとドライ、どちらのコンディションにも対応できる準備ができていただけに悔しい結果に。



決勝日(日曜日)の天候は晴。朝 9 時に車両保管が解除され、店舗メカニックが慌ただしく整備を始めます。14 週の決勝では地頭所選手が好スタート。スタート直後の混乱に巻き込まれることなく、混戦の中で順位を上げていきます。地頭所選手は 16 位で 1 周目を終了。予選のうっぷんを晴らすような積極的な走りを展開します。6 周目に #293 岡本選手を抜くと、去年のライバル、#556 呉選手を終盤に攻略。8 台抜きを見せ、14 位でチェッカーを受けました。

一方、吉田選手は 1 つ順位を上げ、23 位で 1 周目を終了。1 台でも多く抜こうと必死の走りを見せる吉田選手ですが、十勝は抜きづらいコースレイアウトのため、なかなか順位を上げることができません。それでも吉田選手は 3 台抜きを見せ、21 位でフィニッシュ。レース後、上位の選手が失格となったため、地頭所選手の正式結果は 13 位、吉田選手は同 20 位となりました。両選手ともに本来の実力を反映しているとは言えず、悔いの残るレースとなりましたが、まだ 2 大会(3 レース)を残しています。ベストリザルト更新に期待です。



#160
埼玉トヨペット GB BS GR86

吉田 広樹

決勝：20 位

予選 24 位(1 分 37 秒 851)

■予選後：路面があそこまで乾くと思っていなかったため、タイヤの内圧が雨寄りになっていました。濡れた路面でタイヤがボンボン上がり、途中から内圧を下げた方がいいフィーリングになったのですが、クリアになればもう少しタイムが出るかも、という欲があってなかなかピットに入らず、内圧を下げるできませんでした。

■決勝後：走っている場所が悪すぎて、まともなレースができなかったという状況です。自分の予選でのミスにより、あの位置を走ることになってしまったので、流れが悪かったとしか言えないと思います。決勝のペースはトップより少し速いペースで走っていたので、予選さえ良ければというところでした。自分たちのチーム力はあるので、それを噛み合わせるレースを残し 2 戦でやりたいと思います。



#522
GB CAMP BS GR86

地頭所 光

(86GB CAMP)

決勝：13 位

予選 22 位(1 分 37 秒 745)

■予選後：チームに申し訳ないという感じです。ドライでもウェットでも勝算があったのですが、今回のような中途半端な状態になった時にどうするというのが考えられていなかったと思います。路面が乾いた時に内圧が上がり過ぎて、タイヤがグリップしなかったというのが直接的な敗因です。目先のタイム短縮に固執してしまいました。

■決勝後：スタートが決まり、1 コーナーイン側での混乱も避けて、1 周目は順調にジャンプアップ。そのあとはぼくの方がいいペースなのに、抜けないというもどかしい展開が続きました。チャンスがあったので前を抜くことができ、8 台抜きの 14 番手でレースを終えました。現状できることは全部やり尽くしたと思います。天候とのマッチングがうまくいけば、今後表彰台もあると思います。

第 4 戦は 10 月 29 日~30 日 鈴鹿サーキット(三重県鈴鹿市)

GR Garage 浦和美園

With Green Brave

ヤリスジブーキャンブ

YARIS GB CAMP

TOYOTA GAZOO Racing Yaris Cup

東日本シリーズ 第6戦

2022年9月25日(日)

十勝スピードウェイ
(北海道更別村)

■■■ 危なげない走りで3連勝を達成。ランキングトップを独走 ■■■

第6戦は今シーズンの4ラウンド目。ヤリスGBキャンブの大森選手はここまで3戦2勝という成績を残しており、ランキングトップをキープしています。エントリー台数は34台。

日曜日の天候は晴れ。大森選手は金曜日から走行を開始し、チームとともに準備を進めてきましたが、土日の天候は雨。そのためドライコンディションでの走行がないまま、いきなり本番を迎えました。予選は10時20分から15分間で行われ、大森選手は2分ほど時間をあけてコースイン。ランキングトップの大森選手は多くのライバルからマークされており、コースインを急ぐランキング上位の選手についていかに、クリアラップを狙う作戦をとりました。この作戦が功を奏し、1



回目のアタックで1分44秒332のトップタイムをマーク。大森選手はアタックを継続し、翌周には1分43秒957という圧倒的なタイムをマークします。一旦ピットに戻り、ピットロードで待機しますが、大森選手のタイムを上回る選手がいなかったため、大森選手は降車。今季3回目のポールポジション（予選1位）を獲得しました。

12周の決勝レースは13時10分から行われ、大森選手は好スタート。予選2位の選手が出遅れ、大森選手は後続に1秒506差をつけ、1周目を終了します。2位はランキング2位につけている#30 島選手。大森選手のペースは#30 島選手より速く、じわじわとその差を広げていきます。レースの半分、6周終了時点での大森選手のリードは2秒335まで拡大。レース後半に合わせたタイヤのセットアップも的中し、大森選手はさらにリードを広げていきます。#30 島選手との距離をはかりながらも、クルマをいたわりトップチェッカー。富士、SUGOに続く3連勝を飾り、表彰台の中央に立つことができました。今回の結果により、#30 島選手とのポイント差は25に拡大。気持ちの余裕をもって、残り3戦に挑むことができます。次戦は10月8日（土）、スポーツランド SUGO。大森選手がチャンピオンに王手をかけるか、非常に楽しみです。



#1
GB CAMP Yaris
大森和也
(Yaris GB CAMP)

決勝：1位

予選1位
(1分43秒957)
ポールポジション

■予選後：コースに出るタイミングをチームがよく考えてくれて、アタックしやすい環境を作ってくれたので、それがかなり大きかったと思います。コースに入った人たちが裏側に行ったあたりで出してもらって。作戦通りにことが運んだので、いつも通り、前に誰もいなく、後続を気にすることなく、自分のアタックに専念できました。

■決勝後：ありがとうございました。前戦のスタートが今までにないくらい決まったので、早めにクルマに乗って何回もイメージトレーニングして、再現できるようにしたのが良かったのかなと思います。前回の十勝でもレースペースは良かったので、逃げ切れそうな感覚、自信はありました。自分が勝ったことより、チームのみんなの喜んだ顔を見られるのが一番うれしいです。

GAZOO Racing Yaris Cup
東日本シリーズ ランキング

順位	ゼッケン	ドライバー名	ポイント
1位	#1	大森和也	73
2位	#30	島 拓海	48
3位	#62	松原亮二	37
4位	#34	渡辺圭介	29
5位	#19	黒田保男	27
6位	#310	小林伸匡	22

トップ6まで

第2戦は10月8日
スポーツランド SUGO (宮城県)



有限会社アイ・ディ・アイ



EMG ルブリカンツ合同会社



株式会社エヌ・ティ・コーポレーション



株式会社 FM NACK5



株式会社岡崎巧芸



株式会社カーグラス・JP



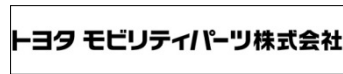
埼群スリーボンド株式会社



株式会社デンソーソリューション



株式会社ドーム



トヨタモビリティパーツ株式会社



富士フイルムビジネスソリューションジャパン株式会社



株式会社ブリヂストン



丸和工業株式会社



株式会社リビコー



レカロ株式会社